

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 月山)

事業所番号	0670102128		
法人名	株式会社 ジェイバック		
事業所名	もも太郎さん黄金		
所在地	山形市黄金81-1		
自己評価作成日	平成 25年 10月 30日	開設年月日	平成 18年 3月 25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族部屋が設けられ要介護者とその家族と一緒に暮らせる。
毎日の入浴を楽しんでいただくことができる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 25年 12月 9日	評価結果決定日	平成 26年 1月 6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念「真心を持って笑顔で接する」「地域に根ざした生活を送る」を掲げ、利用者がどんな風に過ごしたいか、何をしたいか、何処へ行きたいか等利用者一人ひとりの気持ちを受け止め、地域の中で穏やかな暮らしの継続が出来るよう職員は質の向上に向け日々研鑽しています。また道路のゴミ拾いや草むしりなど地域貢献活動も積極的に行っている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	0	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	0	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	0	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	0	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	0	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	0	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念の他に接遇スローガンを全職員が暗唱し日々実践できるように心がけている。	「真心を持って笑顔で接する」「地域に根ざした生活を送る」の事業所理念を掲げ統一したチームケアに取り組んでいる。職員は改善シートを使って気づきや問題点を表し管理者が評価を行い質の向上に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地区の行事に参加したり近隣の農家から野菜を購入している。又地区の利用者の方に来ていただき散髪をさせていただいている。防災訓練の際も町内会長様に連絡し数名の方の参加いただいている。	町内会の夏祭りや盆踊りに参加し、また毎月近所のカラオケや詩吟などのボランティアが訪問し利用者や交流している。今年度第一回「榎沢地区ネットワーク」会合で事業所の取り組みなど紹介理解を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の一斉掃除や施設周りのゴミ集め等入居者様と一緒に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は概ね2ヶ月に1回実施し地区の民生委員、町内会長、包括支援センター職員、家族と現状の取り組みの報告や意見を伺いサービスの向上に活かしている。	地域代表のほか家族代表がその都度メンバーを決めて出席し、状況報告を中心に意見や要望を受けサービスに活かしている。頻繁に外出傾向のある方の対応について意見が出た中から、新たに西部交番所と協力体制を築くことができている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所からの連絡や会議は出席できる限り参加し連携を図っている。榎沢地区のネットワーク第1回に出席し地区の福祉協力員の方々に施設の内容を説明し交流を持つことができた。	市とは事故等があった場合は速やかに、また個別の相談等に出向き助言をもらい、包括支援センターとは運営推進会議等で関わりを持っている。介護相談員の来訪を受け利用者や交流しながら第三者の目を通した気づきをサービスに反映している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	玄関の施錠はしていないが離設の可能性が高い入居者様が施設に馴染まれるまでご家族様の理解を頂きユニットの入り口にはやむ終えず施錠をしている。	帰宅願望や不安のある利用者にご関わりいただくか内部研修を積み重ね、家族のように接しながら寄り添う努力をしている。自由を尊重しながらも転倒やケガなどのリスクについて職員は共有している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	毎朝のミーティングで高齢者虐待の5項目を唱和し全職員が虐待の無い介護を行っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会に金銭管理を行ってもらっている入居者様がいる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明させていただいている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所の際に御家族様に契約の説明を行っている。	毎週面会に来られる家族も多く、都度話を聞くように心掛けている。また広報紙と一緒に生活の様子、健康について、催事等を便りで知らせ意見や要望を伺っている。年一回「家族会」を開催し、介護の悩みなど共通の話題を通して親睦を深めている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設ミーティングや改善シート等で意見を聞く機会を設けている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持ち働けるような職場環境作りについてはそれぞれの意見を聞いたり、会議において意見を聴取したりしている。給与水準や労働環境については、本社との交渉となるが改善についての要望はしている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内があるときは出来る限り参加出来る様に図っている。又教育委員で毎月勉強会を実施している。	外部講師による「ストレスマネジメント」を開催し職員の質向上に繋いでいる。新人は会社研修の他テキスト等で学び、働きながら介護技術の習得に努めている。今後は資格取得や外部研修にもっと多く出席できるように考えてる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会での交換研修に参加し情報交換しサービスの向上に努めている。	毎年交換研修で実習生を受け入れている。法人内では山形ブロックのそれぞれの委員会同士、管理者同士の交流で情報を得て、新しい視点に立った気づきをもらいスキルアップに役立っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前や入所後に本人の話を良く聞き、環境に慣れる様支援している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に本人や家族の話を良く聞き、施設で出来る事と出来ない事等は良く話し同意を得るようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に本人や家族の話を良く聞き、施設で出来る事と出来ない事等は良く話し同意を得るようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様と共に暮らしているとして、言葉使いに注意するように指導している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月担当がお便りを送り、御家族様との絆は大切にしている。又日々の面会時には状況を報告したり、変化があった際は電話連絡し関係を密にしている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同じ宗教を持っておられる方々の面会が定期的に来られ面会時には和やかにすごしていただける様おもてなしの支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を常に把握しリビングのテーブルの配置や席順を配慮している。又その関係が良好にする為声掛け等の支援をしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も訪問しこれまでの関係を大切にしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者が本人のやりたい事やしてほしい事を聞きだしたり御家族様から聞きだしたりし、検討したりしてアセスメントを行なっている。	職員は常に利用者の傍に行き、やさしい気持ちで傾聴に努め会話の中から思いをくみ取るようにしている。最後までここで暮らしたいという希望も寄せられており、その思いに応えられるよう体制を整えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人や家族から状況を聞き出して支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りやフロアーミーティング等で情報を共有し統一したケアを心がけている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝の申し送りやフロアーミーティング等やカンファレンスで情報を出し合い今後の介護計画に反映している。	担当職員中心にケース記録などを参考に3ヶ月に一回モニタリングを実施している。退院後の一時的な機能低下など、また家族等からの要望を取り入れながら現状に即した介護計画作りをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は気づきや工夫を記録し、申し送り時やケースカンファレンスで情報を共有しながら介護計画に反映している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載） 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の農家の野菜を購入したり、理容所の方に出張していただいたり、近隣のボランティア様の毎月のカラオケ等で良好な関係を築く事ができている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と本人の意向を尊重しながら医療機関を受診している。基本は家族対応だが往診に来て下さる地域の医療機関があり、そちらに移管した入居者様もいる。又遠方や家族の支援が得られない方は職員が受診同行している。	かかりつけ医の継続を基本にしながら症状にあわせて協力医や往診体制を構築している。職員の同行受診は臨機応変に行い、家族や医療機関に正確な情報提供が出来るように職員全体で努めている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職員は配置されておらず、同じ会社の他施設の看護職員の意見や応援を求める事ができる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が付き添い情報提供し、情報提供書を提出している。又入院中は定期的に面会し、退院の際は家族と医療機関の連携を行って退院後に速やかに施設生活に適応出来る様支援している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の可能性のある場合は家族と相談し主治医と連携をとり施設で出来る事を説明している。又特別養護老人ホームへの入所えお勧めたりしている。	家族や主治医、訪問看護サービスと連携し看取りを実施した貴重な経験を得ている。緊急連絡対応訓練を行い、職員の不安軽減を図りながら、今後に備えている。現在看取り対応依頼の家族があり、法人としてターミナルケアマニュアルを作成中である。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	山形消防署の普通救命講習を受講しほぼ全職員が修了している。まだ受講していない職員に関しては今後受講する方針である。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の防災訓練は年2回実施している。夜間時の対応に重点をおいている。又運営推進会議時でも地域の協力を求めている事を説明し町内会長、消防団の方の立会いをお願いしている。	町内会長の参加を得ながら夜間想定での防災訓練を行い、反省点として「火災通報装置の使用方法がわからない」が挙げられると、講習会を開催するなどスピード感を持って対応している。	町内会の会合等に積極的に参加し、地域との具体的な支援体制の構築に期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の羞恥心自尊心に配慮し尊敬感謝の気持ちを忘れないよう心がけています。	職員は「入居者権利憲章」の遵守が利用者の人格の尊重となることを理解し、一人ひとりの利用者に応じた言葉かけを行っている。改善シートを活用し、職員が互いに注意できる職場環境を作り、信頼関係構築に繋げるよう心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で意思表示の出来ない方等は本人の表情や行動で把握し対応している。出来る限り本人の希望を聞くようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に合わせた時間を大切にし、その人の希望を取り入れながら支援にあたっている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えや外出時の着替え、又行事参加時のおしゃれを支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いの出来る方には声掛けし進んで行っている。	献立は旬を数多く取り入れて利用者職員で作成している。一緒の食卓では旬を題材にして様々な話題が展開できるように職員は努めている。希望食や行事食のヒントにもなり、利用者の満足が得られている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量が少ない場合は食事摂取表を作り摂取量や水分摂取量を細かく記入し配慮している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口空ケアの声掛けや介助をその方の状況に合わせて支援している。定期的な歯科往診で口腔ケアを受診されている方もおられる。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方の排泄状況に合わせた排泄用品の使用や、排泄パターンを把握し失禁が無い様トイレ誘導している。	排泄チェック表を確認しながら、誘導を行っている。利用者の状態に合わせた尿取りパットを使用することで本人が楽になったり、経済的負担軽減を図ることに繋がっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の状況を排泄表から把握し下剤の調整を主治医と相談しながらおこなっている。又便通のため水分摂取の声掛けや体を動かす事等指導している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午前と午後に分けて毎日入浴していただいている。	職員は、入浴を好まない利用者には入浴後の「すっきりとした笑顔」を想定しながら、統一した声かけや誘導が出来るように心がけている。ゆっくりとくつろげる雰囲気作りを行い、会話を大事にしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は自由にいただいている。フロアーのソファで居眠りしたり和室で横になる事も出来る。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報提供表を全員が閲覧出来る様にしており、薬の変更があった場合は必ず申し送りし全員が周知する様になっている。飲み合わせの悪い食べ物は台所に書き抜きし周知している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の嗜好や能力を把握し本人の楽しみごとが出来る様しえんしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その時その都度とはいかないが、ご本人の希望を把握し希望に添える様努力している。	利用者それぞれの思いに臨機応変に対応し、買い物や散歩に出かけ帰宅時の笑顔になっている。歩行困難な利用者にはドライブなどの計画的な行事外出の実践に努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほぼ全入居者様がお金の管理している方はいません。1名様は御自分で管理されている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な方に関しては、電話、手紙のやり取りを行っていただき交流を図っていただいている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱が無く安心出来る落ち着いた雰囲気心がけている。	クリスマスや正月飾りは準備から掲示まで利用者と職員が一体となって関わり、季節感溢れたホールとなっている。和室は利用者同士のお茶会の場として、和やかな居場所となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置くなど、又ソファや和室で対応している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が落ち着き、安心出来る様な物なるべく多く持ってきていただくよう御家族様に声掛けしている。	持ち込まれた馴染みの物は利用者の希望に出来るだけ沿うように一緒に配置しながら、安心、安全の確保に努めている。出来る方には床掃除をしてもらい、自分の部屋だと思える様に配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事は可能な限り御自分で行っていただき自立心を損なわないような対応を心がけている。			